

会議録

会議の名称		令和４年度 第４回福津市郷づくり推進協議会代表者会議
開催日時		令和４年 12 月 6 日(火)14:00～16:00
開催場所		市立図書館 2 階 研修室 1
委員		勝 浦 : 天野 保章 、 荻原 哲夫 津屋崎 : 御厨 忠男 、 坂口 勝繁 宮 司 : 坂根 康廣 、 梅野 邦彦 福 間 : 梅谷 寧次 神 興 : 富松 享一 、 山西 祐司 上西郷 : 高木 文明 、 畑 清喜 神興東 : 奥 弘子 、 樋口 英典 福間南 : 石橋 和義
専任事務局員		勝浦:花田孝信 津屋崎:大神常男 宮司:三原道雄 神興:富岡裕子 福間:廣渡策生 上西郷:末廣 隆 神興東:宮崎絵美 福間南:宮本清子
市		原崎市長 まちづくり推進室:石井参事 防災安全課:羽田野課長、楨係長
事務局		まちづくり推進室 :香田理事、向井係長、折居
会 議	内容	1. 市長あいさつ 2. 依頼・説明事項 (1)「郷づくり基本構想」施策の取り組みについて(アンケートご協力のお願い) (まちづくり推進室) 3. その他
	配付資料	□「郷づくり基本構想」施策の取り組みについて(アンケートご協力のお願い)

会議内容(要点)

1. 市長あいさつ

市長があいさつを述べた。

(まちづくり推進室)

福間地域郷づくり推進協議会の会長辞職について説明した。

福間地域郷づくり推進協議会より、11 月 25 日(金)をもって、会長が辞職されたとの届け出を受けた。本年度については、新たな会長は置かず、副会長が会長職を代行される。残り 4 か月の代表者会議の委員については、新たに 1 名選出はしない。

また、代表者会議の副会長については、代表者会議の要綱上、要綱に定めがないもので、運営に必要なことについては代表者会議の会長が会議に諮って定めるということになっているため、事務局からこの場を借りて提案をさせていただく。令和 4 年度の代表者会議副会長職の任期が残り 4 か月不足であり、会議も 2 月に 1 回である。また、もう 1 名副会長もいっしょに、会議の運営上大きな支障はないと思われるため、令和 4 年度については、新たな副会長を選出せずにいこうと思う。

(会長)

事務局から説明があったとおり、本年度は進めてよいか。

(委員一同)

一同の賛同により承認された。

2. 依頼・説明事項

(1)「郷づくり基本構想」施策の取り組みについて(アンケートご協力のお願い)(まちづくり推進室)

まちづくり推進室が、「郷づくり基本構想」施策の取り組みについて、アンケート調査の説明及び依頼をした。

(委員)

議会に部の設置条例を上程されているようだが、郷づくりの支援についてどのように考えているのかがはっきり見えない。以前は 5 名担当職員がいたようだが、現在は 3 名になっている。地域に期待することがこれだけあって、不完全だろうと思うため、そのへんも考慮していただきたい。

(まちづくり推進室)

おっしゃる通り、係の人員は昨年度より 1 名減っている。現場周りも、以前と比べると十分にできていないところもあると思う。今回の部設置条例では、市民共働部として新たに部長を配置し、郷づくり担当の課長を再度配置して体制を整えたいと、議会のほうへ提案している状況である。人員等については、具体的な数等を申し上げることができない。

(市長)

もともとは、郷づくりが始まった時に、今ある地域振興部のなかに郷づくり支援課を設置し、郷づくりの推進を進めてきた。地域自治ならびに市民共働部門が、市にとって大変重要であり、市民の皆様と共にまちづくりを進めないといけないという観点から、市長直轄の部署であるまちづくり推進室に、一昨年から市民共働係と郷づくり支援係を配置した。より強固な組織としていくためにも、郷づくり、市民共働、環境部門であるうみがめ課がひとつにまとまった市民共働部の設置を、議会へ提案しているところである。

(委員)

アンケートと地域視察の兼ね合いについて教えていただきたい。地域視察が終わっている地域もあるので、難しいのかもしれないが、地域に期待することなどは当然、地域視察の中でやり取りするうえで必要な項目である。あえて今回アンケート調査をやろうとするのはなぜか。

(まちづくり推進室)

おっしゃる通り、内容が少し重複している部分も出てくると思う。地域視察では、基本構想の検証も踏まえてやっている視察ではあるが、あまりそこにとらわれずに広く課題や成果、思いを率直にいただいている。それはそれで情報としていただきたいが、基本構想の項目自体が今後このまま継続していくものなのか、少し見直しが必要なのか、新たに足すものがあるかなどを検証するにあたり、アンケートはアンケートとして取らせていただきたい。

(会長)

アンケートは各郷づくりでひとつの回答ということだが、同じ郷づくりのなかでも、基本構想や地域づくりに対していろんな意見を持たれている方が多いので、地域視察でいろんな方の意見を聞くほうが意味があると思う。アンケート項目で、「地域に期待すること」とあるが、こちらとしては「市に期待すること」のアンケートを書きたいくらいである。一番基本の、「誰もが郷づくりを知っていること」というのがまだ実現できていない現状である。アンケートは、より効果的なものに活かしてもらえるものにしてほしい。

(市長)

アンケート自体は今日出ていないが、アンケートは実施する予定でこれまで進めてきたため、アンケートの内容の作りこみが重要だと思う。また、質問にもあった地域視察は、もともと予定されていなかったが、共働推進会議を進める中で、直に声を聞くことも重要だということで、地域視察は急遽始めさせていただいている。取りまとめ等大変ご苦勞をかけることは十分想像できるが、各郷づくりが項目に対して持っている思いや課題を、アンケートを通していただければと思う。

(委員)

アンケートは郷づくり単位ですということだが、幅広い世代から意見を吸い取ろうとするなら、郷づくり単位では無理がある。もっと言うと、地域で活動を頑張っている方だけの声になる。なおかつ、郷づくりの役員の中でも意見は様々であるため、ひとつにまとめるというのは無理に近い。このアンケートの狙いが見えない。アンケート自体が悪いとは思わないが、やり方を工夫してもらいたい。

(まちづくり推進室)

アンケート自体は、回答を選択するものや、具体的に書き込める記述のものを混合させたかたちを考えている。一つの回答をいただくにあたり、役員さんのいろんなご意見があれば、そこに書き込めるような想定をしている。今回のアンケートでは限界があるかもしれないが、ご意見があったように、自治会未加入者のことなど、なるべく多くの方の思いを集約できるように内容を考えていかなければいけないと思っている。

(委員)

前回調査のあった、事前ヒアリングのアンケートは共働推進会議がとっているのか。

(まちづくり推進室)

地域視察をさせていただくにあたり、可視化するという意味でも、事前に書面として出したほうがいいのではという話をいただいたうえで、書いていただいたものになる。

(委員)

そもそもアンケートというのは、主催者のほうである程度考えがあって出すものだと思うが、いま聞いていると、なんの目的で取っているのか、このアンケートは本当に必要なのかわかりづらい。同じようなアンケートが何回もできており、その度に話し合いをして出さなければならず、煩雑になっている。そのあたりをもう少し考えてもらいたい。

(委員)

以前のアンケートの回答として、郷づくりを市民にもっと知ってもらうことが必要ということだったと思う

が、その後、市のほうは、どのように市民に対して郷づくりの PR をしたのか。

（まちづくり推進室）

転入者に対して、転入届の際に自治会加入の促進及び郷づくりの PR チラシを配布しているが、その場で詳しい内容の説明や参加の呼びかけまでは行っていない。また、広報ふくつで 2 年に 1 回のペースで、郷づくりと自治会の特集を組んでいる。そのほか、令和 3 年度から、入庁 5～7 年目の研修職員が活動に携わらせていただいている中で、郷づくりの方の取材活動をさせていただき、記事をホームページに載せたりしている。しかし、おっしゃる通り、郷づくりを知らない方がまだまだいらっしゃるということは事務局としても認識しており、市としても PR の仕方に課題があると思っている。

（市長）

郷づくりを進めてきて、サポートする行政の体制、認知度が上がらない課題、自治会と行政の間で頭を悩ませている状況などあると思う。8 年計画である郷づくり基本構想は、中間の見直しの時期に来ている。郷づくり基本構想の中に掲げている郷づくりのあるべき将来像を実現するために、何が課題なのか等、2 年間の共働推進会議の諮問期間で、郷づくりのあり方についてしっかりと協議、提案していただくための材料とさせていただくためにも、各郷づくりにアンケートのご協力をお願いしたい。

（会長）

共働推進会議でも同じようなことを同時進行でしていくことは腑に落ちない部分もあるが、神興東と上西郷はヒアリングが終わってしまったので、本来はそれが行われる前にこういう話もあれば一本化できたかもしれないと思った。来週のヒアリングに、アンケートも持っていき、参加してもらった人と一緒に見ていくというのは難しいのか。

（まちづくり推進室）

難しい。

（委員）

アンケートのターゲットが決まっていないのが問題だと思う。郷づくりで回答はひとつとするならば、回答者を会長のみなど絞ればいいのか。みんなの意見を聞こうとするから中途半端になる。

（委員）

会長名で提出するにあたり、会長が役員の意見を集めないといけないのか、会長のみの意見でいいのか。

（委員）

アンケートを出すことは構わないが、前回のアンケートを集約した結果、市から回答をもらっていない。

（まちづくり推進室）

いただいたご意見については、事務局で整理して進めたいと思う。

（会長）

回答期限が 1 月末というのは、なにか意味があるのか。

（まちづくり推進室）

地域視察が 2 月で終わり、それから具体的な検証が入る。その前に回答いただき、整理する期間を逆算したところ、1 月末までにいただければと思った。

（委員）

ヒアリングの内容と重なるのではないか。

(まちづくり推進室)

ヒアリングの質問項目は、前回の代表者会議で示しているが、ヒアリングの話の中で、今回取ろうとしているアンケートの内容も出てくるかもしれないので、重複する点はあるかもしれない。

(委員)

アンケートを何度もとっており、どの郷づくりからも、郷づくりの認知度が低いという意見がずっと出続け、そしてその状態がずっと続いている。市としては、現状の郷づくりをどのように捉えているのか、どこに問題があると思っているのか、郷づくりと突き合わせをしたうえで考えなければ、郷づくりからのアンケートばかりを評価して次に行くというのであれば、全然進歩がなく、次の段階に行けないと思う。率直に、市側として、どう評価して今後どうあるべきか真剣に考えていただきたい。

(会長)

アンケートを取ったという結果のみが積み重なっており、根本的な課題解決には至っていない。郷づくりの中だけでアンケートを取っていて、いい答えが導かれるのか疑問な部分もある。今回のアンケートについては、どのような形で意見集約したのか、書き込める欄を設けていただくよう依頼したいと思う。

(会長)

以上で説明事項は終わりにさせていただく。

### 3. その他

(会長)

11月5日(土)に行われた全市一斉防災訓練について、防災安全課に来ていただいた。

防災安全課が、第8回目全市一斉防災訓練の実施について、お礼を述べた。

(防災安全課)

現状としては、訓練の実績報告が防災安全課に届いているところであるが、今のところ訓練によってけがをされた等の緊急の連絡は入ってきていない。今後、提出いただいた訓練実績をもとに、訓練の参加率やご意見、ご感想について取りまとめ、次回の代表者会議にて提示させていただく予定である。

(会長)

神興東では、講演会をおこなった。自治会長から、参集型訓練は、コロナが少し落ち落ち着いたとはいえ完全に収まっていない状況で実施するのかという意見もあり、悩むこともあった。

(委員)

従来やっていることを少し細かく実施したため、児童生徒や地域の皆さんにいろんな体験をしてもらえたのではないと思う。本当にいい体験だったと思うが、時期的に、夏の大雨や台風の後の11月はどうなのだろうと思うところがある。

(委員)

任意訓練は、言葉ではやっているというが、実際にはほとんどやっていないというのが現実だと思う。1次訓練、2次訓練と行ったが、2次訓練のほうは、以前よりも参加者が少なかったように感じた。一方で、中学生にも参加してもらったことで、いろんな体験をできたことはとてもよかった。

(委員)

中学生と合同で防災訓練を実施した。数日前、私共が提案した防災啓発映画を中学生にも見てもらい、その後防災訓練に参加という流れであったため、一生懸命に防災訓練に取り組んでいただいたなと感じた。

(委員)

参加人数が少なく、訓練自体が徐々に衰退しているように感じた。大和 1 区自治会などは世帯数が多く、マンションなどの集合住宅が多いため、タオル掛けなどの訓練は不可能に近いような状態であり、その訓練自体は辞退されているようなところもある。一方で、花見 1～4 区自治会などは、まとまった活動をしており、合同訓練とプラスアルファの訓練や講話まで行っている。地域内で 2 極化している様子もみられた。

(委員)

各自治会で 1 次訓練を実施しているが、8 回目となると、だらだらと同じことをしているように思う。訓練のやり方を変えなければ、このままでは皆さん逃げ遅れてしまうのではないかと感じた。

(委員)

あまり危機感がない防災訓練になってしまっている。上西郷地域は、範囲が広く、自治会が点在しているため、難しさを感じる。郷づくりとしては、備蓄品のチェックや、設備が稼働するかの確認を行った。

(委員)

会長も言われた通り、講演会を行った。

(委員)

あまり緊張感がないようなところもあったようだ。タオルを掛けたところに泥棒が入るのではないかと心配され、タオル掛けを行わないところもあった。郷づくりとしては、各自治会長に LINE を通じて報告をしていただいている。一番心配なのは、郷づくりと市の連絡をどのようにして取るのか、無線が壊れた時はどうするのかなどが見えないところである。

(防災安全課)

郷づくりと市の連絡は、無線のアンサーバック機能を使用した連絡の取り方になると思う。今回上西郷でその訓練を実施した。

(防災安全課)

ご意見のなかで出てきたタオル掛けは、家から避難しているという合図になる。訓練では、1 回はタオルを掛けてからすぐしまうという方法などもあるので、実際災害が発生した時の動作の確認ということで今後実施されるというのも一つの方法だと思う。このほか、今日いただいたご意見を含めてご報告させていただき、それに対する検討等も一緒にさせていただければと思う。また、連絡の方法については、万が一通常の電話でのやり取りができなくなった場合、無線設備のアンサーバック機能を使用したやり取りになるが、こういった連絡を取る順番等についても、少し整理させていただきたい。

(会長)

神興東で行った講演会の講師のかた曰く、毎年同じことをしていると関心が薄れてくるため、キャンプをしながら防災を学ぶといったものもあるように、楽しい要素も入れた訓練もいいということを言われており、確かにそうだった。

(市長)

たくさんのご意見をいただいたが、いかに形骸化、形式化、マンネリ化しないような一斉防災訓練にしていか考えさせていただこうと思う。また、12 月中旬から地域防災計画(案)についてのパブリックコメントが始まる。地域防災計画は、市だけでなく福津市全体、当該団体の方も関わって作っていただいた計画であるため、地域自治を担っていただいている郷づくりの方や地域の方に、様々なご意見をいただいて、さらに醸成したものを、本市の新たな地域防災計画として来年度発表したいと思っている。ご協力のほどお願いしたい。

(委員)

粗大ごみの有料化について、うみがめ課に説明に来てもらったが、タンズと傘 1 本が同じ料金という

のはあまりにも不公平になるのではないかと意見が出ていた。先月の役員会で、古賀市では、傘くらいの大きさのものは、別にパレットを作り、その中に入れて収集していると聞いたという話もあっているようだ。全体が納得するというのは難しいと思うが、もう少し工夫ができないか。

また、3年前から広報の配布をシルバーに委託していると思うが、その当時は月2回配布だったものが、現在は月1回配布になり委託料が減ったのではないか。もし委託料が減っているならば、その分を交付金に回すなどの考慮をしていただければと思う。

(会長)

粗大ごみの有料化について、うみがめ課が神興東に説明に来られた時は、傘は5本までならまとめて出せると説明があった。

(委員)

傘は曲げたらコンテナに入ると言われたが、高齢者は曲げる力がないので難しい。

(委員)

12月の分別の際に、ある自治会では、ごみが出せない高齢者のお宅に、軽トラックで回ったが、粗大ごみがいつもの2〜3倍あったそうだ。おそらく、6月まで、粗大ごみがかかり出してくるのではないと思う。粗大ごみの有料化について地域の関心は高いと思うが、いざ7月になった時に、地域の方が仕組みを理解できているのか心配である。

(会長)

郷づくりの役員や自治会長などは、理解されている方が多いと思うが、広報紙で周知していても具体的に分かっていない人もいるのではないと思う。混乱が起きるのは間違いないと思うため、運営委員会でもうみがめ課に対し、丁寧な説明と周知をお願いした。また、実際有料化が開始するのは、来年度の自治会長の時なので、令和5年度の新自治会長にも説明をお願いしますと伝えている。

(まちづくり推進室)

おっしゃる通り、広報紙の配布は月2回から1回になったことで、委託料は若干減ってはいる。しかし、情報量自体は減っておらず、ページ数と重量が増えたため、1回にかかる委託料の単価が上がっている。物価高騰も相まって、単純に委託料が半分になっているということではない。また、広報の部署から、交付金にお金を回すということは、市全体の話になってくる。財政部局を含め、経営陣との協議がなされての実現ということになるため、私から、減った委託料を交付金に回すということは申し上げることができない。

交付金に関しては、以前から単価や設定についての問題が出ており、共働推進会議の2地域のヒアリングでも出てきている。そういった声を受けて、どのような答申をいただくか、またその答申をもって市がどのように政策を決めていくかというところで、ようやく動くということになる。担当としては、もちろん増やしたいという思いはあるが、市全体の財政調整の中での話になってくるので、一課長でお答えを出すというのが難しい。課題ということでは十分に捉えているので、そのあたりはご理解いただければと思う。

(委員)

神興東は広報紙を郷づくりで配っている。ほかの地域は、シルバーが配布しているため受託だが、神興東は交付金がきている。交付金だと使い道が制約されてしまう。以前から、広報紙の配布を受託にできないかと話しているが、誰も答えてくれない。議会に諮らないといけないなどと逃げられる。市として広報紙の配布については、こういう基準でやりますと言ってもらえればすっきりする。

(委員)

県の最低賃金は上がっているが、事務局員の雇用経費は180万からずっと変わっていない。事務局員が2名いるが、夜の会議や土日の行事にも出てもらっているが、ボランティア扱いになっている。労働契約を結んでいるのに、ボランティア扱いになると、触法ではないかと不安になっている。

(まちづくり推進室)

完全な解ではなく、私のこれまでの解釈ということでの答えになるが、以前は全地域交付金というかたちで広報紙の配布をしていただいていた。交付金は補助金であるため、活動の一部補填というかたちの支援である。業務委託となると、かかる経費を全額算出する必要があるため、配布方法について全地域希望を取り、その結果、神興東地域のみが交付金の流れを今も続けていただいている状況である。現状、交付金ではなく業務委託に切り替えるとなると、今の積算を含め予算を組み替えなければいけない。交付金とは別の予算として中で整理をし、折衝していかなければならないため、現状、交付金の延長でしか支払いができておらず、市のほうでも解が出せていない状況である。

(委員)

市の方針として、広報紙などは地域で配ってもらうというのが前提として残っているはず。

(市長)

現在、広報紙の配布は、市の業務として行っているが、例外として、神興東は継続して地域で配っていただいている。しかし、本来市で行うことを郷づくりで行っているので委託ではないかという提案は腑に落ちる。郷づくりには支援金として様々な交付金が入っているが、広報紙配布に係る交付金については、今の金額を委託に変えるというのは何もおかしいことではないと思う。また、事務局員の雇用経費はどの地域も 180 万である。契約は郷づくり推進協議会が雇用することになっている。土日と夜間については、経費が支給されていないとのことだが、契約にそのように謳ってあるのか。

(会長)

各郷づくりの判断で出すことは可能だと思う。

(委員)

事務局員雇用経費の 180 万以外の経費として、交付金から支給できるのか。

(市長)

支給はできる。

(委員)

福間南は費用弁償として支給している。

(委員)

費用弁償としては勝浦でも支給している。しかし、費用弁償の単価ではとてもじゃないが不十分である。ダブルスタンダード契約が労働契約上認められるのか疑問である。契約は郷づくりかもしれないが、仕組みを作っているのは市であるため、法律的なところを検討してほしい。

(委員)

郷づくりが始まった当時から、事務局員の雇用経費が変わっていない。10 年間も据え置きしているのはひどいと思う。

(まちづくり推進室)

おっしゃる通り、平成 25 年に事務局員を導入してから、180 万の金額は変わっていない。これが通用するかどうかというのは法律の問題もあるため、当然こちらでも考え直す時期にきているという自覚はある。導入当時は、日中は事務局員雇用経費のなかでご活動いただき、土日夜間についてはボランティア的な扱いになっていたが、これはまずいのではないかとということで、令和元年に費用弁償を導入しようという話になり、令和 2 年度から費用弁償を出せることになった。しかし、出せるであり、出しなさいではないので、地域ごとに取り決めの中で出されているということ把握している。そもそも 180 万というのがどうなのかという声は事務局にも届いており、先ほどから出ているお金にまつわる問題の一つとし



て捉えている。

（委員）

市の方針として、費用弁償の金額の上限は決まっているのか。郷づくりが決めていいのか。事務局員は郷づくりが雇っているのであれば、180 万の上限なども、市で上限を決めるのはおかしいのではないのか。その金額の中で、いい人を探しなさいと言われても、いい人が来るはずがない。せめて、世間一般のアルバイト料が出せるようにはしてほしい。特に部会の活動は夜間や土日が多い。それをほとんど事務局員にお願いしてやっているのが現状である。

（まちづくり推進室）

現時点で上限は設けていない。市としてどういった体制で行くか再度検討させていただきたい。

（委員）

結論を先延ばしにせずに、早く結論を出してほしい。毎回この話はいろんなところで問題になっているが、何にも結論が出てこない。

（市長）

現状、費用弁償は出しているが、出すのは義務じゃないなどと中途半端になっている。本年度中は難しいと思うが、なるべく早い段階で、ここはこういう考え方をお願いしますといった、市としての考え方を説明させていただこうと思う。

（委員）

共通の会計基準がない。会計の仕組みを作って、決算の仕組みも作って皆に配らないからこんなことになる。

（市長）

交付金について明確に示しきれていない部分があるので、共働推進会議の中で、有識者の考えも踏まえて、地域予算制度の精緻化を図ることが一つの思惑。

（会長）

交流センターの管理運営業務の事務量がかなり増えている。それを 2 人の事務局員で、しかも金額は同じで回すことは無理がある。

（委員）

触法かどうか確認していただき、費用弁償もいいということであれば、ルールを明確にしてほしい。

（市長）

確認する。自信をもって問題ないと説明できなければ、見直さないといけないと思っている。

（まちづくり推進室）

以上で郷づくり推進協議会代表者会議を終了する。